山形新聞　平成２８年１１月２８日（月）

地域と学ぶ ⑮

山形大学地域教育文化学部

日本語学・日本語教育学　園田 博文 准教授

日中交流の先哲、宮島大八

２０１６年、山形大に在籍する外国人留学生は２３１人（５月１日調査時点）となり、過去最多を更新した。出身国や地域別でみると、中国、台湾からの留学生が過半数を占めている。

私が本学部で開講している「日本語史演習」や「日本語教育演習」といった科目にも留学生が参加し、日本人学生に交じって積極的に発表を行っている。留学生には、指導教員のほかに留学生チューター（主に日本人学生）が付き、生活面や勉学面でさまざまな相談に乗っている。

中国語圏（中国・台湾）にも本学部から継続して留学している。台湾の協定校に赴いて中国語を学び、台湾文化を体験する授業「アジア文化研修セミナー」は来年度で９回目を迎える。このような形で海外の学生と本学部の日本人学生が交流を行っている。

山形にゆかりがあり、中国との交流に尽力した人物は数多くいるが、その中の一人として宮島大八を挙げることができる。大八は１８６７（慶応３）年10月20日、米沢藩に生まれ、１９４３（昭和18）年7月9日に没した。本名を吉美、字を詠士という。書家、中国語教育者として知られる。父宮島誠一郎は米沢藩士で、後に貴族院議員を務めた。

大八は、幼少時、誠一郎が明治政府の職に就いたため家族とともに上京したので、山形（米沢）生まれ東京育ちということになる。東京外国語学校などで中国語を学んだ後、１８８７（明治20）年から１８９４年まで清（しん）国留学を行う。帰国直後には詠帰舎を開き、中国語を指導した。詠帰舎は１８９８（明治31）年、善隣書院と改称される。その後、１９０４（明治37）年に「官話急就篇」（後に「急就篇」に改訂）という中国語会話書を出版し、昭和の初めまで大ベストセラーとなった。

手元に架蔵の「急就篇」があり、会話例として「您乏了麽。我還不覚乎乏」とある。１９３４（昭和９）年に同じく宮島により出された「急就篇総訳」では「お疲れですか。そう疲れたとも思ひません」となっている。日本語の方は今でも通用しそうだが、中国語ではそう言わなくなった。

＝月１回掲載します

▽1967年に東京都で生まれ、茨城県で育つ。山形大着任は2004年。

山形大と台湾の学生による藍染め体験の様子
＝昨年10月、台湾